



外国出張報告書

平成 28 年 1 月 7 日

1. 出張国名 ラオス、ベトナム
2. 出張月 平成 27 年 11 月～12 月
3. 出張目的 インドシナ半島地域における家畜飼料基盤の確立および気候変動シンポジウム（カントー大学）出席：A

4. 成果の概要

ラオス国立農林研究所・畜産研究センター（LRC）において実施した牛への給与試験の取りまとめを行い、1. ビール粕給与によって増体量の増加、枝肉歩留り、精肉歩留りが向上すること、2. トウモロコシサイレージ、キャッサバ残渣、ビール粕を用いた肥育試験でも良好な結果が得られることを明らかにした。ナムアン村での実証試験については 5 軒の農家での牛舎の建設を終了し、稲ワラ、キャッサバ残渣、ビール粕を用いた飼養試験を開始した。またラオス国立大学で継続中のキャッサバのサイレージ化に関する実験では、タンパク質源として酵母を添加した試験の試料の化学分析、消化性、ガス発生量について検討中である。また、アニュアルミーティング、ナムアン村の成果説明会において、牛の舎飼いの有益性についてカウンターパートと共同して発表を行った。

JIRCAS-カントー大学気候変動プロジェクトワークショップにおいて、メコンデルタにおける畜産からの温室効果ガス抑制方法について論議するとともに、エクスカーションにおいて実際の家畜飼養について検討を行った。